

概说

现代日语语法

铃木康之 / 主编

日本大东文化大学日语语法研究会 / 编著

彭广陆 / 编译

吉林教育出版社

概说

现代日语语法

铃木康之 / 主编

日本大东文化大学日语语法研究会 / 编著

彭广陆 / 编译

吉林教育出版社

(吉)新登字 02 号

概说现代日语语法

彭广陆 编译

责任编辑:戴宇

封面设计:王劲涛

出版:吉林教育出版社 850×1168 毫米 32 开本 10 印张 225 000 字
1999 年 3 月第 1 版 1999 年 3 月第 1 次印刷
发行:吉林教育出版社 印数:1-2 000 册 定价:15.00 元
印刷:长春市人民印刷材料厂 ISBN 7-5383-3789-X/G·3427

本书根据日本櫻楓社1991年

《概説・現代日本語文法（改訂版）》

編 译

『概説・現代日語語法』の刊行に際して

日本語文法研究会の著書『概説・古典日本語文法』『概説・現代日本語文法』は、このたび、北京大学の彭広陸および吉林教育出版社の戴宇、両氏の尽力によって、その中国語版『概説・古典日語語法』『概説・現代日語語法』として刊行されることになりました。このことにつきましては、特に、国際交流事業団からの経済的な支援、および、原著出版社「おうふう」からの積極的な賛同をたまわりました。それぞれ、下記のようなおことばをいただきましたので、紹介いたします。

このたび、当国際交流事業団の支援活動の一つとして、中国・吉林教育出版社から『概説・古典日語語法』『概説・現代日語語法』を発行することができました。このことは、日本と中国との国際交流の深まりの一つの証になるものと思います。今後、多くの方々に十分に利用されて日本と中国との文化的な交流のために有意義に活用されることを願っています。

1996年9月1日

国際交流事業団 香坂順一

このたび、弊社おうふう（桜楓社）の発行する「概説・古典日本語文法」「概説・現代日本語文法」が中国語に訳されて、それぞれ「概説・古典日語語法」「概説・現代日語語法」として中国・吉林教育出版社から発行されることとなりました。このことは、日本と中国との文化的な国際交流の一つとして、ここから、うれしく思います。弊社としましても、これを機会に、広く中国との国際交流に力をそそぎたいと願っています。今後とも、多くの方々の支援をたまわりたく、よろしくお願いたします。

1996年9月1日

株式会社 おうふう 代表取締役

古賀真利子

ところで、「概説・現代日本語語法」の中国語版が完成されるについては、鈴木康之研究室（大東文化大学）に在籍していた学生たちの先駆的な試行を紹介する必要があります。ここに、感謝の意味をこめて、それら学生（卒業生）の名まえをあげておきます。

鈴木憲子（'87年卒業、'89年修士修了）

劉明姫（'91年卒業）

黃海燕（'95年卒業）

葉偉然（'87年卒業）

黃佳恵（'93年卒業）

陳雄（'96年卒業）

上記の学生の業績のうち、黃海燕までで、「動詞」全体の訳をほぼ手がけました。それらを陳雄がひきついで、最後までを訳してみました。その後、彭広陸が全面的に検討しなおして、あ

らたに中国語訳を完成させた次第です。

ところで、「概説・現代日語語法」は、「概説・現代日本語文法」の中国語訳といえますが、原著の不適切・不十分なところは、若干の手なおしをくわえてあります。また、原著の最後にあった「文法研究のあゆみ（学説の歴史）」は、カットしました。

最後に原著「概説・現代日本語文法」（'89.9.20/改訂新版'94.9.20）の著作スタッフを紹介しておきます。

- | | |
|---------|--|
| 監修者 | 鈴木康之 |
| 執筆者 | 関根 紀・宇田川義明・黒田 徹・加藤康秀・青木和男・黄 順花・柳田浩二・遠竹敬子・尹 淑姬・任 尚彬・花山愛治・長谷高之・榎引 彰・新川尚子・上田勝彦・杉山啓子・中島美香・山口敦史・須見美香・佐藤晴樹・粟田英樹・富田裕幸・泉田朗子・鈴木憲子 |
| 研究協力者 | 王 亜新・彭 広陸・呉 大綱・田 秀芳・大城清美・関口里佳・橘 浩之・藍 正弘・山浦知巳・峰村康広・Mc Donald, Darren |
| 執筆協力者 | 東 優子・白石恭子・別府不二夫・山本浩由 |
| 改訂新版編集者 | 黒田 徹・中島由美子・石川晶子・白石恭子 |

わたくしの研究室を本部事務局とする日本語文法研究会の活

動が評価されて、このように中国との国際交流に役立つこととなり、あらためて、関係する方々に感謝いたします。ありがとうございました。

1996年9月29日

鈴木康之

译者前言

本书是根据日本樱枫社1991年出版的《概説・現代日本語文法（改訂版）》编译的。原书的主编铃木康之先生是日本大东文化大学教授，长年从事日语语法研究，颇有建树。与此同时，铃木先生还致力于日语教学和对外日语教学的研究，取得了一系列的成果，本书就是其中之一。

迄今为止，在我国已有多部日语语法书流行于世，但窃以为这些语法书并未摆脱日本学校语法的窠臼，难免有墨守成规之嫌。日本的学校语法究竟有哪些缺陷？为了便于读者对此有一个大致的了解，编译者征得铃木康之先生的同意，特从铃木先生的著作《日本語文法の基礎》（日本三省堂出版，1977年）中选译其中的一节“現代語の学校文法の問題”附于卷尾，以资参考。

由铃木康之先生主编、日本大东文化大学日语语法研究会成员（其成员均为铃木先生的弟子）执笔的《概説・現代日本語文法》，在诸多方面不同于以往的语法书。

首先，该书运用普通语言学的理论，引入了许多语法范畴（如时态、体、语气、语态等），这样就便于读者把握现代日语语法的特点，同时也便于与其他的语言进行比较。其次，它在借鉴近年来语法研究新成果的基础上，对现代日语语法进行了较为客观的、系统的描写，以此弥补了学校语法孤立地、片面地看待语言现象之不足。这点在书中的活用表里体现得尤为充分。此外，它还照顾到与学校语法的衔接，以“注”的形式简要地说明了该书的语法体系与学校语法的对应关系。

简而言之，科学性与系统性是该书的最大特点。它的出版对于日语语法研究，尤其是对于日语语法教学来说，具有重要的意义。同时，对于传统的学校语法来说，也不啻是一个重要的挑战。因此，该书在日本问世以后，受到了学界的重视和好评。熟知日本学校语法的人可以通过它换个角度来看待日语语法；初次接触日语语法的人则能够依靠它轻易地入门并掌握其要点。这也是译者要把它介绍给我国读者的初衷。

作为铃木康之先生的学生，编译者非常高兴能够将自己导师的著作介绍给国内的读者。与本书为同一系列的《概説・古典日本語语法》已由吉林教育出版社出版，读者可以通过它对这套语法体系有一个更全面、更深刻的了解。

《概説・現代日本語文法》出版以后，陈雄等诸学友曾先后在日本进行了中文翻译的工作，并为此付出了辛勤的劳动，其成果作为铃木康之先生主持的《日本語教育のための対照言語学的な文法研究》的报告书曾在内部发行。其前后经过，在铃木康之先生为本书出版而撰写的《〈概説・現代日本語语法〉の刊行に際して》中有明确的说明，恕不在此赘言。此次正式出版《概説・現代日本語文法》中译本之际，根据出版社的要求，编译者对原书重新进行了翻译，个别例句的翻译参考了陈雄等人的译文。在此，谨向为本书的中文翻译做了前期工作的诸位学友表示衷心的感谢。

与《概説・現代日本語文法》相比较，中译本有以下不同：首先，为了便于读者利用，译者对全书的结构进行了适当的调整。除对一些章节的先后顺序进行了调整以外，还将原书中的“おぎない”这一章的内容分别归入了相关的章节，并进行了必要的文字改动。其次，更换、补充了个别的例句。再次，改正了原书中的印刷错误。最后，删除了原书中的“文法研究のあゆみ（学説の

歷史)”一章的內容。因此，嚴格地說，本書屬於編譯。此外，譯者還將原書中使用的術語加上譯文以《日漢術語對照表》的形式附於卷尾。

在本書的編譯過程中，鈴木康之先生自始至終給予了熱情的指導，吉林教育出版社的編輯戴宇先生為本書的翻譯出版作出了不少努力，日本國際交流事業團為本書的出版提供了贊助，在此一併致謝。

作為譯者，我衷心地希望本書的出版對於國內的日語學習與研究不無補益。

彭廣陸

1998年5月18日於北大燕東園寓所

原书序言

铃木康之

本书是专门以现代日语语法为讲解对象的。为了便于读者从整体上把握现代日语语法，书中对此提纲挈领地进行了讲解，不妨说这是一本建立在语言学常识基础之上的较为适宜的日语语法概论。如今，日语教学在国际上也受到世人的关注，科学的、系统的日语语法教学的迫切性日益突出，但现状尚不能满足这一需要。在这种情况下本书的出版所具有的意义恐怕是不言而喻的吧！

需要说明的是，这里所讲的“语法”，并非现在日本的初中、高中所教的那套所谓的“学校语法”。我们这套语法是以语言学常识为基础的，因此在书中涉及到了学校语法中见不到的时态、语气、语态、体等问题。

还是举个例子来说明一下，请注意下面两个句子中的“いる”、“いた”。虽然这两个句子中都使用了“いる”这个动词，但1)中的“いる”可以称做“现在时”，而2)的“いた”则可以称做“过去时”。

1) 猫^{ねこ}は そこに いる (います)。〔猫在那儿。〕

2) 猫は そこに いた (いました)。〔猫在那儿来着。〕

具体地说，1)中的“いる”显然讲的是现在的事情，而2)中的“いた”则讲的是过去的事情。因此，仅就“いる”这个动词

而言，似乎可以把“いる”这个基本的词形叫做“现在时”，而把“いた”这个词形叫做“过去时”。这样做才符合语言学的常识。而且，如果把例句1)和2)改成敬体的句子，那么“いる”、“いた”就会分别变成()中的“います”、“いました”。这个“います”、“いました”也可以叫做敬体的现在时和过去时。如果再进一步把“いる”、“いた”、“います”、“いました”改成否定形式的话，则会分别变成下面这样：

猫は そこに いない。(←いる)〔猫不在那儿。〕

猫は そこに いません。(←います)

猫は そこに いなかった。(←いた)〔那会儿猫没在那儿。〕

猫は そこに いませんでした。(←いました)

如果再想一想“いる”的其他词形，大概还可以举出下面这样的例子：

みんなが ^{もど}戻るまで そこに いよう (いましょう)。

〔在那儿待到大家回来吧!〕

先生が ^く来るまで そこに いろ (いなさい)。

〔你在那儿待到老师回来!〕

いつまでも そんな ^{ところ}所に いるな。

〔别老待在那种地方!〕

“いる”这个动词的词形可以归纳为下表：

		简体		敬体	
		肯定形式	否定形式	肯定形式	否定形式
断定式	现在时	いる	いない	います	いません
	过去时	いた	いなかった	いました	いませんでした
推测式	现在时	いるだろう	いないだろう	いるでしょう	いないでしょう
	过去时	いただろう	いなかっただろう	いたでしょう	いなかったでしょう
劝诱式		いよう		いましょう	
祈使式		いろ	いるな	いなさい	

现在时和过去时在语法学上是属于时态这个范畴的。表中的断定式、推测式、劝诱式、祈使式等则属于语气这个范畴。这些都是语言学的常识。然而，非常遗憾的是日本的中学所教的语法并非如此，它与这些常识毫不相干。现在的学校语法对于前面的1)和2)中的“いる”、“いた”、“います”、“いました”分别是这样解释的：

- いる……是动词“いる”的终止形。
- いた……是在动词“いる”的连用形“い”后面接上过去（完成）助动词“た”的终止形构成的。
- います……是在动词“いる”的连用形“い”后面接上敬语助动词“ます”的终止形构成的。
- いました……是在动词“いる”的连用形“い”后面接上敬语助动词“ます”的连用形“まし”，然后再接上过去（完成）助动词“た”的终止形构成的。

对于诸如此类的解释，除了精通学校语法的人以外，大部分的人恐怕会不知所云的。学过学校语法的初中生和高中生都不喜欢学语法也是情理之中的事情。本书的出版就是为了改变学校语法所造成的这种现状的。

本书是由大东文化大学日语语法研究会的成员分别执笔的，但文责最终是要由身为主编的我来负的。本书对于那些只学过所谓学校语法的人来说可能有许多地方难以接受，但如果把日语语法同普通语言学（也是传统的语言学）的常识加以比较的话，本书的内容也就没有什么费解的了。

本书的出版是以大东文化大学（1987～1989年度）特别研究课题“对外日语语法教学研究”的成果为基础的。在日语语法研究会的鼎力协助下它得以问世，我深感欣慰。在此我衷心地希望本书不仅仅限于大学使用，而且能够广为利用，但愿它对于语法教学的实践，进而对于日语教学的研究有所裨益。

目 录

「概説・現代日語語法」の刊行に際して	鈴木 康之
译者前言	彭广陆
原书序言	鈴木 康之
第1章 绪论	1
1.1 句子和词	1
1.2 主语和谓语	2
1.3 词的语法意义	4
1.4 主要的词类	7
1.5 活用、曲用和屈折、粘附	13
第2章 动词	14
2.1 动词的一般特征	14
2.1.1 终止形、中止形	14
2.1.2 动词词形的对应关系	17
2.1.3 强变化、弱变化、特殊变化	21
2.1.4 动词用于句尾的基本词形	26
2.1.5 动词活用的例外现象	35
2.1.6 相互动词	36
2.2 时态	37
2.2.1 现在时	37
2.2.2 过去时	42
2.3 语气	43
2.3.1 断定式	44

2.3.2	推测式	45
2.3.3	劝诱式	46
2.3.4	祈使式	48
2.4	语态	48
2.4.1	被动态	53
2.4.2	使役态	59
2.4.3	使役被动态	62
2.4.4	可能动词	63
2.5	体	65
2.5.1	持续体	68
2.5.2	结果体	71
2.5.3	终结体	73
2.5.4	“~してくる”和“~していく”	74
2.6	授受态	75
2.6.1	シテヤリ态	78
2.6.2	シテモライ态	80
2.6.3	シテクレ态	81
2.7	意图	82
2.8	连体形	85
2.9	分词形	88
2.9.1	中止形	92
2.9.2	スレバ、シタラ、スルト	95
2.9.3	シテモ、シタッテ、シナガラ、シツツ、 シタリ	98
第3章	名词	103
3.1	名词的一般特征	103
3.1.1	名词的种类	103